

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

これまで発行した
CS通信や「コミュニ
ティ・スクール」に関
する情報はこちらへ



北海道 子ども地域支援

検索

《子ども地域支援グループHP》

「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀

「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムin滋賀が、去る1月24日(金)、滋賀県大津市において、「学校も地域も元気になる秘訣とは」をテーマに開催されましたので、その概要を紹介します。



【アトラクション】滋賀県立甲西高等学校吹奏楽部によるマーチング

■ 【挨拶、行政説明】

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長 水田 功 氏

- 技術革新、高齢化、共働き世帯の増加、子どもの貧困、社会への貢献意識の低下、学校の役割の拡大による業務量が増加など、教育を取り巻く現状や課題を共有する必要がある。
- こうした中、この4月から小学校で新しい学習指導要領が全面実施となる。新しい学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が非常に重要なコンセプトとなっており、目標を社会と共有すること、子どもたちに求められる資質・能力を明確にすることなどが示されている。
- こうした課題に対応するためには、5年後、10年後を見据えて学校や地域の在り方を見直す必要があり、そのためには学校と地域の連携・協働が重要である。
- そのため、文部科学省ではコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を推進しているところである。
- コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みのある学校である。
- 学校運営協議会の機能の一つである学校運営に関する基本的な方針の承認についてであるが、学校の教育課程の一つ一つについて承認するとなると膨大な量になるので、まずは、グランドデザインについて承認するというイメージをもってもらうとよいと考えている。
- さらに「承認」については、第三者的に「OK」というのではなく、当事者として一緒にやっいていこうという「Let's」のイメージをもってほしい。
- 地域学校協働本部は、様々な地域学校協働活動がつながり、活動しやすい体制である。あくまでも体制であるため、必ずしも拠点がなければならないというわけではない。関係者同士の緩やかなネットワークができていることを重視している。
- コミュニティ・スクールが目指しているのは「地域とともにある学校づくり」であり、地域学校協働活動(本部)が目指しているのは「学校を核とした地域づくり」である。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(本部)がお互いに情報を共有したり、連携・協働したりすることによって相乗効果をもたらすのではないかと考えている。
- コミュニティ・スクールの学校運営協議会に地域学校協働活動の推進員が入ることで、情報を共有したり、役割を分担したりすることができる。
- 国では、第3期教育振興基本計画で、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(本部)の充実を進めており、令和4年までに全ての公立学校へのコミュニティ・スクールの導入と全ての中学校区で地域学校協働活動(本部)を実施(設置)することを目標に定めている。



【トークセッション 第1部】「持続」するために大切なこととは

コーディネーター NPO 法人まちと学校の未来 代表

パネリスト 奈良市富雄中学校区地域教育協議会総合コーディネーター、奈良県CSアドバイザー
滋賀県CSアドバイザー、元湖南市立岩根小学校長
山口県萩市立田万川中学校長

竹原 和泉 氏
新谷 明美 氏
宮治 一幸 氏
岩井 康浩 氏

- 学校の役割が増大している中、これからはスクラップ&ビルドの考え方が大切になってくる。
- 特に既存の取組をやめる（スクラップ）際には、様々な立場の方がいる学校運営協議会の力は大きい。校長一人ではなく、学校運営協議会で協議をして決めたということは大きな力になる。
- PDCAのサイクルで考えると、学校運営協議会はPの役割を担い、地域学校協働活動はDの役割を担っていると考えられる。
- 学校運営協議会だけでは、誰が活動の担い手となるのかという課題が出てくる。
- 地域学校協働活動だけでは、地域の活動がどんどん学校に入った結果、学校は取組をこなすだけになってしまうような状況に陥ることが考えられる。
- 学校の教育目標の実現に向けて、どんな活動が必要なのか、どんな力を付けたいのかなど、審議する機関である学校運営協議会が必要である。
- 両者の機能を発揮させながら、一体的に推進する必要がある。



【トークセッション 第2部】教職員の役割とは

コーディネーター NPO 法人まちと学校の未来 代表

パネリスト CSマイスター、元神奈川県立市ヶ尾高等学校長
滋賀県CSアドバイザー、長浜市立余呉小中学校主任事務主査
岡山県浅口市立鴨方東小学校教諭

竹原 和泉 氏
増淵 広美 氏
松田 幸夫 氏
谷野 善則 氏

- 学校運営協議会に、全ての先生が年間に1回参加している学校がある。
- 学校運営協議会で、先生方の本音が聞けると、学校の理解はもとより、先生方の状況というのが理解できる。先生方の状況が理解できると、応援したいという気持ちになる。
- 先生方の役割が増大していることが、本日のフォーラムで話題となっている。
- 先生方が本来行うべきことである教科指導や生徒指導などをきちんと行うことができるようになる必要がある。
- 学校が学校の状況をオブラートに包んだ状態では、何かあったときに、学校と地域は対峙する関係になってしまいがちである。
- 学校と地域が課題を共有することで、地域は学校の強い味方になる。困り感を共有できる信頼関係が大切である。
- 先生方がコミュニティ・スクールを導入したよさを実感できるようにすることが大切である。



コミュニティ・スクールのリーフレットを作成しました

令和2年4月から小学校で新しい学習指導要領が完全実施になることを踏まえ、「社会に開かれた教育課程」と「コミュニティ・スクール」の関連について、4つのポイントに整理したリーフレットを作成しました。各市町村教育委員会及び学校に2部配付するとともに、子ども地域支援グループのHPに掲載しましたので各種研修や協議会、説明会等での活用をお願いいたします。



【リーフレット1ページ】

【担当から】トークセッションの中では、学校運営協議会で先生方の働き方について協議した事例や生徒指導上の課題を解決するために学校運営協議会が大きな力になった事例などの紹介がありました。学校や地域の実情により、コミュニティ・スクールの在り方が大きく違うことを学びました。

(担当：子ども地域支援G 主査 吉村公孝)